

1 地域再生計画の名称

サイクリング観光客受入整備計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

美唄市

3 地域再生計画の区域

美唄市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

美唄市は、北海道のほぼ中央部に位置し、総面積 277.69 km²を有し、市内を J R 函館本線、国道 12 号、北海道縦貫自動車道が南北に縦断するとともに、道道美唄月形線が市内中心部から石狩川をはさんで西に隣接する月形町を経て、札幌・石狩方面へつながる交通の要衝となっている。

地形的には、東部は、比較的標高の低い褶曲性丘陵地が連なり、夕張山地に属し豊富な森林資源を蓄積する一方、西部は、石狩川の肥沃な土壌に恵まれ、石狩平野の広大な低地帯で稲作を主体とした道内有数の農耕地帯を形成している。

また、本市は、新千歳空港や札幌市から比較的近い距離にあるなど、交通アクセスの良い位置にあることから、自然環境や農村景観を生かしたサイクルツーリズム、炭鉱遺産のほか、炭鉱時代の学校を再利用して整備した「安田 侃 彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」など、特色ある地域資源を有し、観光や産業づくりに最大限に活かしながら、交流人口の拡大を図っている。

また、平成24年に北海道運輸局がニセコ町と連携し、台湾の自転車愛好団体役員やメディア関係を招いたツアーが実施され本市を訪問。そのことがきっかけとなりサイクルツーリズムに係る取組として翌年度以降台湾自転車協会会長をはじめとする関係者の美唄市訪問や、台湾で行われた「ツールドイースト台湾」でのゲストスピーチ、「第1回北海道そらちグルメフォンド」が美唄を拠点に開催、自転車国際会議「ベロシティ・グローバル2016」に招待されるなど、美唄市のサイクルツーリズム促進に向けた取組が評価されてきたところである。

今後、さらなる交流人口の拡大を図るため、サイクルツーリズムを推進するにあたっては、外国人を含めた「サイクリストの聖地」を目指し、自転車協会の招聘により交流のある台湾やタイへの観光プロモーションによる誘客促進を行っているほか、サイクリストの受入環境の整備として、サイクリング観光の拠点としての宿泊施設の整備やレンタルサイクル事業、サイクルサインの整備などに取り組んでいる。

4-2 地域の課題

美唄市の人口は、昭和 31 年のピーク時に約 9 万 2,000 人であったが、国立社会保障・人口問題研究所の推計では 2060 年には、約 7,800 人まで減少すると予測されている。

人口減少が急速に進む中で、人口分析によるコミュニティとしての維持には、社会減対策を同時に進めることが必要であり、雇用の創出や、観光など交流人口の拡大による地域の活性化が求められる。しかし、近年の観光入込客数は、横ばい傾向にあることから、本市の自然環境や農村景観、食などの地域資源を活用した取組の推進や、さらなる観光など交流人口の拡大を図るため、サイクリングによる観光・交流などの取組を推進することが重要であり、今後「サイクリストの聖地」としてPRを行う上では、サイクリストのおもてなしの環境として、公共施設や飲食店等におけるトイレ・給水・休憩所など一目でわかる標記や軽易な修繕道具の設置、滞在型の誘客を図るための宿泊施設の不足など受入環境の充実が課題となっている。

■ 美唄市の国勢調査人口 ■

(単位：人)

S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年
38,416	38,552	37,414	35,176	33,434	31,183	29,083	26,034	23,035

出典) 美唄市人口ビジョン



図1 美唄市の人口推移と今後の推計

4-3 目標

観光などの交流人口の増加や雇用の創出を促進するためには、受入体制の整備や魅力ある観光づくりが必要であり、サイクルツーリズムの推進は、観光ルートの周遊や自然や食などの地域資源も絡めた交流人口の拡大による経済効果などが期待されることから、サイクリストの受入環境を整備し、サイクリング観光客を増やすことで、交流人口の増加による地域活性化を目指し、人口減少下にあっても活力あるまちづくりに繋げていく。

【数値目標】

事業	サイクリング観光客受入整備事業	年月
KPI	サイクリング観光客数（人）	
申請時	0	H30.1
初年度	100	H31.3

2 年目	150	H32. 3
3 年目	200	H33. 3

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

これまで国内外観光客の誘致対策に取り組できた中で、さらなる交流人口の増加を図るため、サイクリング観光客の誘客を促進することとし、受入環境に必要な整備として、空気入れや工具等をコンビニや公共施設等の休憩スポットに設置し、交流人口の増加による地域活性化を目指す。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

（1）事業名：サイクリング観光客受入整備事業

（2）事業区分：観光業の振興

（3）事業の目的・内容：

（目的）

観光などの交流人口の増加や雇用の創出を促進するためには、受入体制の整備や魅力ある観光づくりが必要であり、市の自然環境や農村景観を生かしたサイクルツーリズムの推進は、観光ルートの周遊や自然、食などの地域資源も絡めた交流人口の拡大による経済効果などが期待されることから、サイクリストの受入環境を整備の上、交流人口の増加による地域活性化を目指し、人口減少下にあっても活力あるまちづくりに繋げていく。

（事業の内容）

本市を訪れるサイクリング観光客が、安全・快適にサイクリングが楽しめるよう、交通量の多い国道沿いなどの公共施設やコンビニ、飲食店等の人が集まる施設などに空気入れや工具等を設置し、「おもてなし」的なサポートの仕組の整備を図る。

→各年度の事業の内容

サイクリング観光客受入整備事業

初年度) 空気入れや工具等の設置にあたっての意向調査を行い、希望個所に設置するとともに、市HPや広報等によりPRを行う。

（4）地方版総合戦略における位置付け

当市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、サイクルツーリズムの推進による観光客の誘致を推進することとしており、本事業はこの趣旨に基づく事業である。また、総合戦略の基本目標として、観光入込客数（現状 300,000 人→H31 900,000 人）を定めており、本事業はこの目標の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(K P I))

事業	サイクリング観光客受入整備事業	年月
K P I	サイクリング観光客数 (人)	
申請時	0	H30. 3
初年度	100	H31. 3

(6) 事業費 (単位：千円)

サイクリング観光客 受入整備事業	年度	平成 30 年度	計
	事業費計	135	135
区分	需用費	135	135

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	計
あいおいニッセイ同 和損害保険(株)	100	100
計	100	100

(8) 事業の評価の方法(P D C Aサイクル)

(評価の手法)

事業の KPI であるサイクリング観光客数について、実数値を公表する。

また、美唄市まち・ひと・しごと創生総合戦略を進捗管理する産官学金労言で組織される「美唄市総合計画審議会戦略専門部会」において、事業結果を評価・検証する。

(評価の時期・内容)

事業実施年度の翌年度 5 月に美唄市総合計画審議会戦略専門部会による効果検証を行い、翌年度以降の取組検証を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後、速やかに美唄市公式ホームページにおいて公表する。

(9) 事業期間

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

5－3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 観光振興事業

事業概要：サイクリング観光情報等の発信を積極的に行い、観光・交流人口の拡大を図る。

事業主体：美唄市

事業期間：平成30年度～平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

美唄市総合計画審議会戦略専門部会において評価・検証する。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

事業実施年度の翌年度5月に美唄市総合計画審議会戦略専門部会による効果検証を行い、翌年度以降の取組検証を決定する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後、速やかに美唄市公式ホームページにおいて公表する。